

安心と笑顔のために

日本共産党札幌市議団ニュース

No. 296 2023年2月16日

日本共産党札幌市議団 事務局 TEL 211-3221 / fax 218-5124

一方的で画一的な学校統廃合計画は止めよ

2月16日 文教委員会 池田議員

西白石小学校と白石小学校の統廃合計画に反対する陳情が出され、池田ゆみ市議が一方的で画一的な統廃合計画はやめるべきだと質問に立ちました。

池田市議は、統廃合の反対署名が1252筆提出されていること、周辺住民の反対意見が強いことや、連合町内会からも時期尚早との意見が出ているため、統廃合計画は撤回すべきと求めました。市教委は「今後も、学校規模適正化の意義をしっかりと説明し、寄せられた声に寄り添いながら、教育環境を整えてまいりたい」とあくまで統廃合ありきの答弁でした。また、寄せられた声に寄り添いというのであれば、計画の策定にあたって学校や地域、子どもたちに詳しい教員はどのように関わっているのかを質問。市教委は「地域の皆様に合意をいただいた上で、統廃合は協議会に移りますので、その協議会の中で教員の方々も、加わっていただいて議論をしていただきたいと考えている」と教職員が統廃合そのものの賛否に関われないことを招致の上で、統廃合が決定した段階で議論に参加することは可能だと答弁しました。

あまりに当事者を無視した計画であるため、最後に池田市議は「市教委が基準を決めてそれにあてはめて統廃合を進めている。これまでも、地域住民の声を聞くといいながら、統廃合の基準を一方的にあてはめて学校をなくしてきた。基準そのものを見直すことも含めて市民の声を聞き、一方的で画一的な統廃合計画を進めるべきではない」と求めました。

ヒグマと人間の共生へ 人員を確保せよ

2月16日 総務委員会 田中議員

これまでの「さっぽろヒグマ基本計画」では手稲・西・中央・南・豊平・清田の6区が対象でしたが、「さっぽろヒグマ基本計画2023(案)」ではヒグマの市街地出没が相次いで発生していることから、札幌全区が対象となりました。計画が総務委員会にかかり、田中議員が質問に立ちました。

田中市議は「人とヒグマの共生とあるが人間から見たときの対策のことばかり書いてある。森林ゾーンにおけるヒグマの生息環境管理など駆除に至らないような対策強化が重要ではないか」と質問。市の担当者は「奥山の生息状況の把握に努めていくとともに、有識者の意見も伺いながら、必要に応じて関係機関とともに対策を検討してまいりたい」と前向きな回答でした。また、同市議は「本市としてヒグマ対策を担う人材確保など専門集団としての体制強化が求められているというふうに思いますがどのように強化を図っていくのか」と検討委員会で、ヒグマの侵入防止のためには札幌市に専門的な知識を持った人材をきちんと配置すること、きちんと人がいることが大事と述べられていたことを取り上げました。市の担当者も「適材適所の対策を進めて行くことで状況に応じた体制の確保に努めてまいります」とヒグマ対策が一步前進。

最後に「生態を把握して自然環境の保全をするためにも人員の配置のための予算は必要。また本市内の森林は近隣自治体に繋がっていることから、近隣自治体との連携強化も必要。併せて国や北海道との連携、財政的な支援をしっかりと求めていくことが重要」と市に求めました。

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。